

身近な自然観察「冬の樹木草花」  
観察参考メモ

【冬の樹木草花を観察する前に】

2020年、新型コロナウイルス感染症により、人との交流や移動が制限されることもありました。「身近な自然」はいつものとおりそこにあります。身近な公園や、なにげない自然の中にでかけてみましょう。

冬に観察に出かける時は、暖かい服装で。両手があくりュックがおすすめです。

【自然観察の注意点】

○「くつつく種」の中にはとげのようになっているものもあり、しげみの中には思わぬ危険なものがあるかもしれません。しげみに入るときは長靴や厚手の靴下などで肌を出さないようにしましょう。

○自然にめくれている樹皮は無理にはがさないようにしましょう。水を吸いあげる管が切れ、木が枯れてしまいます。

○木を見上げるときは、根や苗を踏まないように足元に注意して観察しましょう。

【観察のポイント】

森があり、川があることは、いろいろな植物や生きものがくらす事ができる、「生物多様性」に大切な環境です。いろいろな生きものがいる環境をよく見てみましょう。また、季節ごとに、いろいろな身近な場所で、自然観察してみましょう

○季節ごとに同じ場所に立って全体を見渡してみましょう。

○葉っぱの色は、種類によっても、その環境によっても違います。いろいろな葉を集めてくらべてみましょう。

○つぼみそのまま冬を越して春を待つ植物もあります。冬につぼみも観察してみましょう。

○葉が落ちる樹木は、木のはだ（幹）のようすを観察してみましょう。

○自然にめくれた皮と木の間には、小さな虫が越冬していることがあります。

○どんぐりは、葉っぱの形、実の形、カクトの形がいろいろあるのでいろんところで拾って調べてみましょう。

○冬は、葉っぱが落ちている木も多いので、見上げてみるとめずらしい「ヤドリギ」を見られるかもしれません。

○かつての日本人は樹木草花をいろいろなものに活用していました。樹木草花と私たちのくらしのつながりについても考えてみましょう。

### 【冬の樹木草木の観察に便利な図鑑】

- ・『ヤマケイハンディ図鑑 3 樹に咲く花 離弁花①/樹に咲く花—離弁花②』
- ・『ヤマケイハンディ図鑑 5 樹に咲く花 合弁花・単子葉・裸子植物』

1930年創業、2020年4月1日に創立90周年を迎えた「山と溪谷社」(通称ヤマケイ)ハンディ図鑑はアプリも含めて22種(2021年1月現在)。その中でも、冬の樹木草花の観察にオススメの3冊です。

- ・『落ち葉でしらべようどんぐりのいろいろ(しぜんたんけんずかん)』(小峰書店)

小学校低学年から中学年向け。木が常緑樹であるか落葉樹であるかに注目し、ていねいに観察し調べることで、どんぐりの種類がわかるようになっている。生物細密画家、松原巖樹さんの絵も美しい。

- ・『野草のロゼットハンドブック』亀田龍吉著(文一出版)

野原や道端で普通に見られる野草のロゼット(地面すれすれに葉を放射状に出したバラ模様の状態)と、似ている姿勢の低い野草77種を収録。ロゼットの写真のほか、識別に役立つ葉や花の拡大、成長した草姿も掲載。ロゼットを「調べる」ヒントが満載されている。

企画運営：一般財団法人森永エンゼル財団

制作・監修：NPO法人せたがや水辺デザインネットワーク

2021.2.25